

我孫子市立湖北小学校 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果

① 成果と課題

国語

前回（令和6年度）と比較すると、平均正答率での向上が見られました。領域別にみると、「情報の扱い方に関する事項」において、県や全国の正答率よりも高く、情報と情報との関係づけの仕方や図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができていました。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、県や全国の平均と同程度の正答率でした。解答の形式別にみると、記述式問題での正答率は昨年度より下がったものの、これまでの経過と比べると改善傾向にあります。国語で自分の考えを形成することを目指した本校の校内研究や、昨年度までの新聞を活用した学習である NIE（Newspaper In Education の略）の取り組みが、成果として感じられる結果でした。

しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「言語文化に関する事項」については県や全国の平均正答率よりも低い結果となりました。具体的には、漢字を文の中で正しく使うこと、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができるかを見る問題に課題があります。また、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する、といった問題にも課題が見られます。これらは例年の課題でもあります。文を書く中で漢字を正しく使える漢字学習の充実、個々にあった書き表し方の工夫や応用的な課題に取り組めるようにする活動の充実に力を入れていきたいと思います。

算数

前回（令和6年度）、前々回（令和5年度）と比較すると、平均正答率の向上が見られました。しかし、県や全国と比較すると低い結果となりました。「数と計算」の小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位をとらえる問題や、「測定」のはかりの目盛りを読む問題はよくできていました。

全体的に「図形」と「データの活用」の領域に関する問題に課題が見られました。「図形」ではコンパスを用いた平行四辺形の作図の仕方、台形の性質について理解しているかを見る問題の正答率は半分ほどでした。「データの活用」では、伴って変わる2つの数量の係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を見る問題に課題が見られました。記述に関する問題には特に課題が見られます。無回答率は低いですが、正答率は低い傾向です。これらも例年の課題となっているため、基礎・基本となる知識の確実な習得を目指し、指導を続けていきます。記述式問題では、自分の考えの根拠が必要な場合が多いので、基になる知識や情報から、相手にわかりやすく説明する活動を、今後も続けていきます。

算数に限ったことではありませんが、児童個々の正答率に二極化が見られます。国語や算数が得意だと感じている児童は、自分の考えを積極的に出し、進度も速いです。苦手意識をもっている児童は、課題に前向きになれず、集中が散漫なこともあります。タブレット等を活用し、一人一人の習熟状況に合わせた学習課題の設定や指導、児童の意欲を高めていけるような工夫を、今後も実施していきたいと考えています。

理科

全国平均、県平均に比べて少し低い結果となりました。領域別にみると「エネルギー」を柱とする領域は全国平均と同程度の結果でした。「生命」や「地球」を柱とする領域の問題は全国や県平均よりも低い結果でした。

質問紙を見ると、理科の学習への関心は高い結果で、授業にも意欲的に取り組んでいます。しかし、「記述式」の問題は特に低い正答率でした。結果をもとに考察すること、差異を比べること、新たな疑問を見出すことを文章にすることに課題が見られます。

普段の授業から結果からの考察を自分の言葉で書き表すことや、考えを交流することに重きを置いて指導を続けていきます。

質問紙

「向社会性」及び「自己有用感」の分野が高い傾向にあります。「人が困っているときは、進んで助けていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」や「夢や目標を持っていますか」という質問、学校での学習に関する質問に対しては、前向きな回答が多く見られました。さらに、「これまでに受けた授業で、ICT機器はどの程度使用しましたか」という質問でも、高い使用率がうかがえる回答状況でした。

反面、「生活習慣・学習習慣」の分野はやや低い傾向にあります。「朝食を毎日食べていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしていますか」という質問では、「当てはまらない」と答えた児童の割合が、全国平均よりもやや高い結果となりました。また、「学校以外での学習時間」においても全国平均よりも少ない傾向が見られました。「一日当たりの読書の時間」においても低い傾向が見られました。家庭学習の取り組みに加え、家庭での読書についても、ご家庭の話題とし、考えてみてください。

② 今後の取り組みについて

自ら考え、学び、行動できる人を育成していけるよう、本校の教育目標である「やさしく かしこく たくましく」を大切に、教員間だけでなく、保護者・地域の皆様とチームとなって指導に当たっていきます。

本校では学力の向上のため、課題に向けて以下のような方策を立て、取り組んでいきます。

○主体的に学びに向かう児童の育成

今年度より校内研究のテーマを「主体的に学びに向かう児童の育成」として、国語と算数の授業改善に取り組んでいます。具体的には児童が取り組みたくなるような導入やゴールを明確にして取り組むこと、個々の状況に応じて学び方を選択できるようにすること、などに重点をおいて実践を重ねています。今年度の結果を踏まえ、次年度以降もさらに改善を進めていきます。

○タブレットの活用

タブレットを活用し、個別に課題を設定したり練習問題に取り組ませたりしています。今年度は「デジタルドリル」を導入し、一人1台端末のメリットを生かした学習を行っています。また、児童相互の考えを、タブレット上で共有するなどして、協働的な学びへもつなげています。今年度端末の更新がありました。今後さらなる活用方法を模索・検討していきます。

○子ども達の、学びへ向かう姿の育成

先にも述べたように、正答率の二極化が見られます。それは普段の生活に置き換えると、学習に向かう姿の二極化とも言えます。子ども達一人一人が、意欲的に学習に向き合えるよう、学校ではカリキュラムや指導方法を常に見直しております。ご家庭でも気になることがあればご相談いただくとともに、お子さんが健やかに前向きに学校生活を送れるよう、身体面・精神面でのサポートを、よろしくお願いします。特に、早寝、早起き、朝ごはんは、生活の基本となります。本校教育活動へのご理解とご協力を、今後もよろしくお願いいたします。

○教職員研修の充実

例年、湖北小では、教員の授業力向上をねらいとし、初期層教員研修を設定しています。また、全国学力・学習状況調査の問題を分析したり、重点とする指導事項を確認したりして身につけさせるべき力を共通理解して授業を進めていきます。

○スクールサポート教員の活用

1～2年生にはスクールサポート教員が入り、算数を中心とした学習の支援を行っています。3～6年生には、教務主任が入り、こちらも算数を中心とした支援を行っています。学年が上がるにつれ、苦手意識を持ちやすい教科ですので、基礎基本となる知識や計算の力を確実に身につけられるよう、複数の教員で協力しながら学習を進めています。

○放課後学習室の充実

本校では学校運営協議会委員や地域の学習ボランティアの方が中心となって毎週水曜日の放課後、図書室を会場に放課後学習室を開設しています。常時30人ほどの児童が放課後学習をおこなっています。算数の苦手な単元を復習したり、宿題を見てもらったり、児童の状況に応じて取り組んでいます。興味のある保護者の方は、ぜひ学校にご相談ください。